

光る朝

朝目覚めると泣いていた。あなたが死ぬ夢を見たのだ。

ふとんに横たわるあなたの顔は陶器みたいに白くひんやりして、リビングの花
瓶よりもずっと静かだった。頬をつねっても肩を揺すってもぴくりともしないの
で、脇をくすぐり、フライパンとおたまでカンカンと音を鳴らし、さらにはふに
やふにやとタコみたいな動きのダンスを踊った。それでもあなたはぜんぜん笑っ
てくれないものだから、わたしはつめたくなかった手を何度もさすり、ぴーちくぱ
ーちくしゃべりつづけた。

ねえ、もう九時だよ。起きなきや。ほら、こんなにいい天気。お散歩日和だと
思わない？ そういえばこのまえ、薬局に行くときに気づいたんだけどね、小学校
の横の道、ほんの数秒だけ金木犀の香りがするの。ほんとうに数秒だけ。きょう
はその道をまっすぐ行って、公園をぐるりと一周して、川沿いを歩いて帰ってく
るのはどう？ 家に着いたらあとは自由。読書でもなんでもすきなことをしてちょ
うだい。そうだ、こないだの旅行で買ったほうじ茶でも淹れようか。午後にはテ
ーブルに日が差して、マグカップの中も夕陽みたいに光るのよ。そんなの絶対に
おいしい。

それからわたしは添い寝をして、歌を歌った。旅行中にあなたが車の中で流し
ていた、十数年前に流行ったバンドの曲。「素朴だけど、生きること真面目な
感じがいいんだよね」とあなたは言った。

昔はよさがわからなかったけど、最近急に響くようになってきたみたいでさ
あ。結局のところ、バカみたいにまっすぐなひとがいちばんカッコイイんだなっ
て思うようになったんだよ、あこがれるっていうか。でもいま真面目にこんな話
をしてることだって、心のどこかで恥ずかしく思ってしまう自分がいるんだ。

めずらしく饒舌だったあなたの横顔を思い出しながら、わたしはその真面目な歌を真面目に歌う。歌っているうちにあなたの肩は涙でべっちりと濡れている。夢はそこでおわり、枕にみずうみみたいな染みができていた。

わたしは急いで横を向く。夏のあいだにすっかり焼けた腕がそばにだらんところがっていたので、おそろおそろ手を伸ばし、血管に沿うように指をゆっくりすべらせた。脈にふれると、とくとくと音がする。てのひらは温かかった。

手を握ったままあなたの胸元に忍び込み、その鼓動もたしかめる。弾んだ衝撃で壊れちゃうんじゃないかと心配になるくらい、あなたの心臓は躍動している。いま動いているということは、いつか動かなくなるとのことだ。

考えるだけでなんだかおかしくなりそうで、あなたの胸に頭をぎゅうぎゅう押しつける。あなたは眉間に皺を寄せ、んぐ、とかすかな唸り声をあげる。そして瞳を閉じたまま、夢か現実かわからない声でいう。

「痛い」

朝目覚めるときみが泣いていた。ぼくが死ぬ夢を見たという。

断崖絶壁のロープを握りしめるほどの切実さできみはぼくにしがみつき、ひいと泣いている。大丈夫、ここにいるから。そう訴えるように抱きしめてみても、子どものようにしゃくりあげるばかりだ。きみはぼくがいなくても楽しく生きていけるひとだろうに。

きみの力は、ときどき驚くほどつよい。ぼくが死ぬのが嫌で泣いているのとどこだが、さっきはむしろきみに殺されるかと思った。あんなに力いっぱい頭を押しつけられて、肋骨にひびでも入っていたらどうしてくれる。

まあ、仮にひびが入っていたとしても。

きみが目を開けたときにぼくの心臓が動いていたことも、ぼくが目を開けたときいきみの心臓が動いていたことも、すごく幸運なことなんだろうと思う。白

状すれば、それ以上にすばらしい一日のはじまりがあるだろうかとすら、いまだけは思わなくもない。

ああ、きみのせいでまた恥ずかしいことをいってしまったいそうだ。でも毎日こんなふうには思えたら、ぼくらはもつと上手くやれるんだろかな。

「そんなに泣いたら、頭痛くなっちゃうよ」

きみの息遣いが落ち着いてきたので、布団からでてカーテンをあける。朝日がまぶしい。すこし肌寒いが、きみのよくいう「お散歩日和」というやつだろう。きょうは朝から晩まで、きみがしたいと思うことをなんでもしよう。インドア派のぼくだけだ。

キッチンに行き、勢いよく水を飲む。一晚眠るだけで体中がこんなにも乾いている。ぼくにとっては一生分といってもいい大量の涙を流したきみは、きつともうカラカラだ。

ポットでお湯を沸かし、棚から新しい茶葉をとりだす。旅先で買ったほうじ茶。きみは宿で出されたお茶やお菓子をおいしいおいしいとすぐに気に入り、比較もせずに買ってしまおうようなところがある。ぼくには理解できないが、ときどき無性に、きみになってみたくなる。

「お茶、淹れたよ」

布団のそばまでもっていく。蒸らすあいだの三十秒、すきな歌を口ずさむ。せっかく泣き止んでいたきみが、なぜかまた泣き出してしまう。ほうじ茶は朝の光を浴びて、琥珀色に輝いている。